

# 日銀の視点

早いもので、今年も残り1カ月足らずとなった。今年の県内経済を振り返ると、5月に新型コロナウイルスの感染症上の位置付けが5類となり人流が活発化したことなどから、一年を通して基本的には、緩やかながらも改善を続けたとみている。個人的にも、4年ぶりに通常規模で開催された水戸黄門まつりや、夜の飲食店などで、2年半前に水戸に着任して以降では最大のにぎわいを感じた。

日銀水戸事務所長 上野 淳

## 本年を回顧しつっと思う

正常化以外でも、本県には、明るい話題が決して少なくなかったと思う。今年公表された昨年（または昨年度）分の統計では、工場立地面積と県外企業立地件数が全国1位、農林水産物および工業製品等

調な模様である。一方で、物価高や海外経済減速の影響も続いた。企業収益が中小企業を含めて安定的に確保され、今年の賃上げが一過性のものに終わらずに社会に定着していく「賃金と物

の価格転嫁の動向に引き続き注視が必要である。また、京セラ創業者の故・稲盛和夫氏はその著書で、「値決めは経営」と位置付けた上で、「お客様が喜んで買ってくださる『最高の値段』を射止めているか」、「競争

さて、2000年前後に米国に留学していた際に耳にし、今でも耳に焼き付いているフレーズの一つに「decision making under uncertainty」という科目名がある。不確実性の下で意思決定を行うことは難しく、心理的ストレスも伴うが、昨今の変化の激しい時代においては、これに付き合っていくべきを得ない。来年も同様であろうが、私どもの立場からは、「賃金と物価の好循環」の実現に向け、引き続きその役割をしっかりと果たしてまいりたい。

（次回は1月13日掲載）